

西多摩医師会報

創立
80
周年

創刊 昭和47年7月

第250号 平成5年10月

同好医会発足100周年



『薬やさんの看板』 安富一夫

目

次

	頁		頁
1. 80周年記念式典をひかえて		6. 学術	
松原貞一	2	在宅ケアにどうかかわるのか	
2. 平成5年度第2回臨時総会開催		片平潤一	10
広報部	3	7. 文芸隨筆その他諸事百般	
3. 理事会報告	4	雑記『医師会名簿』 山田正哉	12
4. 会員通知・医師会の動き	8	『ボルドーに行く』 堤 次雄	14
5. 各部だより		8. 新人紹介	星野 誠
学術講演会のお知らせ	9	9. お知らせ	16
伝染性紅斑、手足口病の取扱について		10. 表紙のことば	安富一夫
地域医療部	10	11. あとがき	玉木一弘

80周年記念式典をひかえて

会長 松原貞一

西多摩医師会80周年記念式典を目前にひかえ、役員・委員の先生方のご努力により準備は滞りなく進行しております、会員は勿論日医・都医を始め区市医師会・行政・関係官庁団体より多数の来賓出席が予定され、急遽式典会場の設営を変更椅子を増やすことを検討する程で、盛大な開催が予定されております。会員の先生方にも一層のご協力をお願いする次第です。

顧みまするに、わが西多摩医師会は明治45年4月10日東京府知事より「西多摩郡医師会」設立認可をうけて以来、名称その他に多少の変遷はありましたが、昭和22年11月28日「社団法人西多摩医師会」設立許可を得て現在に及び、80年の歴史と伝統のある由緒ある医師会であります。更には、医師会の前身となつた「同好医会」の発足は明治26年1月14日とあり、多摩が神奈川より東京に移管されたのが明治26年4月1日で今年が100年目に当るというこうで、ボイス93多摩21暮しの祭典が昭和記念公園で開催されておりますが、同好医会より見ますと、わが医師会は多摩と同じく100年の歴史を持つことになります。

西多摩郡医師会発足当時は、会員38名収入予算67円50銭とされており、現医師会A会員160名、B会員196名、計356名本年度の予算総額3,520万円と比べると今昔の感に耐えません。これを更に60周年70周年80周年時に比べてみると、A会員数は112名・132名・160名と漸増、予算額も723万・2,417万・3,520万と増加しております。A会員160名という構成は、東京都医師会傘下の48地区医師会の中では21位であり、決して弱小医師会ではありません。更には会員が減少している地区医師会もみられる現在、10年に2割増加をしているのも、地域事情によるものかも知れません。会員増は当然若い先生方の入会が多い

ということであり、会員の高齢化が進み平均年60歳といふのが当り前の医師会の中で、わが西多摩医師会の平均年齢は57.5歳であり、この若さは医師会にとって何よりの財産と考えます。また昨今の医師急増時代、人口10万対比医師数は全国で165名、東京全体では234名という時代に、わが西多摩地区では100名弱であり、地域としては多少医師過疎の感は否めませんが、我々にとっては恵まれた環境にあるともいえます。

地域保健医療計画では必要病床数は3,981床となっており、現在当地区の一般病床数は4,070床で多少オーバーの数字ですが、全国的にも一般病床数に占める老人病床数の比率は11.2%とされているのに、当地区では56%にも上り、救急などに利用される一般病床不足は実感として否めません。更にはC C U を含む心臓手術などの高次医療施設の不足も、当地区的死因の一位が悪性新生物ではなく心疾患となっている原因の一つかも知れず、今後医師会としても考えて行かねばならない問題であります。

70周年の時老人保健法が発足、以来健診事業が医業の中に大きく入って来ました。租税特別措置法が改廃となり、医療経営も大きな曲り角を経て、この10年間に物価は20%、人件費は40%の上昇をみているのに、医療費の高騰とは別に保険点数は実質10年間に3.1%であり、医療経営はまさに冬の時代を迎えております。その間医療法の改正に伴い、ひとり法人や医薬分業の問題、休日や夜間ににおける救急体制作りの為の負担増、医療の中でも臓器移植を含む脳死の問題、終末医療に係る尊厳死・安楽死の問題、頻発する医療訴訟の中での開業医家庭医の在り方、訪問診療を含む在宅医療、産業医や学校医としての保健活動、福祉との連携など医師会として取り組ま

ねばならない問題も山積しております。人口13万A会員58名の青梅市から、人口3,700A会員1名の檜原村迄9市町村を包括する西多摩医師会としては、80年の歴史と先輩達の伝

統を大事にしながら、この80周年記念事業を節目として、21世紀に向け更なる飛躍を願わずにはいられません。

平成5年度第2回臨時総会開催

平成5年9月25日土曜日、午後2時より平成5年度第2回臨時総会が下記次第にて開催された。

平成5年度第2回臨時総会次第

司 会 真鍋総務部長

1. 開会宣言 松原会長

1. 議長指名 米山秀雄会員を指名 松原会長

1. 議長登壇

1. 資格審査 議長

会員総数356名 過半数(179名以上)、出席26名、

委任状217名で成立した

1. 開会挨拶 松原会長

1. 議案

I. 議事録署名人 大嶽栄二、木野村幸彦会員を指名す 議長

II. 審議事項

「平成5年度収支補正予算につき承認を求める件」 高水経理部長

原案通り補正予算案を承認す

——以上で議事終了——

1. 閉会宣言 松原会長

1. 閉会挨拶 宮川副会長

1. 議長団降壇

(広報部)

理事会報告

★ Information

9月定例理事会

平成5年9月8日

西多摩医師会館

【1】 報告事項

(I) 東京都医師会広報担当理事連絡会報告

(玉木理事)

7月26日、都医会館にて開催。都医広報事業内容報告を受け、意見交換を行った。

(II) 産業医「三者協」報告

(伊藤理事)

西医で認定産業医の紹介を願いたい。産業医のいない50名以下の事業所の相談窓口がほしい。などの意見があった。

(III) 「納涼会」報告

(石田理事)

8月10日、サンコーポラザホテルにて、52名の出席で開催され盛会に終った。

(9月号に既報)

(IV) 各部報告

(玉木理事)

(広報部) 80周年誌、編集作業報告。顔写真付会員紹介記事の原稿がほぼ順調に集まっている。思い出の写真等がまだ少ないので御協力をお願いしたい。

(V) 各地区会よりの報告

(各地区理事)

(福生) 9月13日 地区理事連絡会を行う予定。

(瑞穂) 9月20日 地区会を行う予定。

(羽村) 9月14日 幹事会を行う予定。

【2】 報告承認事項

(I) 入会会員について

—— 承認 —— (真鍋理事)

(II) 東京都医師国保組合「組合会議員」推薦について

(〃)

米山秀雄会員を引きつづき推薦する。

【3】 協議事項

(I) 入会金について

(高水理事)

入会金徴収方法について下記のように現行の通り確認する。

(S 62年12月22日理事会承認)

<開設者変更>

(1) 実態（経営母体）が変わらない場合

（病・医院・診療所共）

—— 入会金の半額 ——

(2) 実態（経営母体）が変わった場合

（病・医院・診療所共）

—— 新規入会と見做し全額 ——

<親子継承>

（注）閉院後の期間に関係なく

—— 入会金の半額 ——

<管理者のみ変更及び医療機関名のみ変更>

（病・医院・診療所共）

ただし、実態（経営母体）が変わらない場合

—— 徴収しない ——

(II) 学校医大会出席者負担金について

(高水理事)

西多摩医師会の公務として理事会の承認を得た者については参加費を助成する。

(III) 収支補正予算について

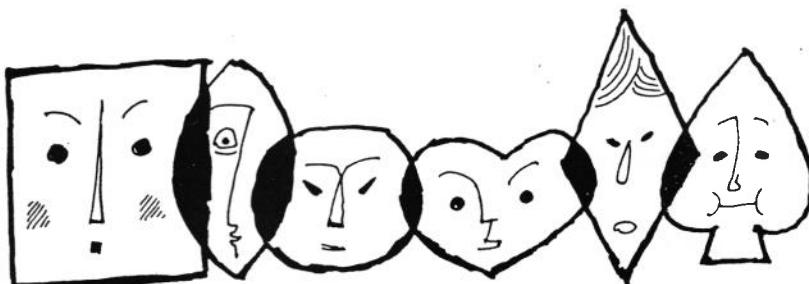
(松原会長)

80周年記念事業特別会計にかかる収支補正予算について、9月25日に臨時総会を開催する。

(IV) その他

(高水理事)

最近、手足口病、伝染性紅斑のとりあつかいについて、日本小児科学会が、登校停止の要なしとの見解を出したが、学校保健法の規定が現存しており、今後の西医の対応については、西医学校医委員会にて協議する予定。（各部だよりに関連記事）



9月定例理事会**平成5年9月21日****西多摩医師会館****【1】 報告事項****(1) 都医地区医師会長協議会（9月17日）**

(松原会長)

1. 都医からの伝達事項**(1) 東京都南新宿エイズ検査、相談室について**

9月1日より実施（保健所退職医1名、渋谷・新宿医師会協力）、10日迄の8日間（1日60名予定）の検査者数285名（男165、女110）であった。

(2) 多摩地区の保健所における夜間休日エイズ相談、検査について

八王子保健所 …… 10～12月 第2・第4木曜

PM 6：00～8：00

立川保健所 …… 11月20日、12月4日

PM 2：00～6：00

★ (3) 平成5年度老人性痴呆疾患保健医療指導者研修の実施について

平5.10.28(木) PM 2：00～6：45、東京都社会福祉保健センターにて

「痴呆性老人の現状と対策」について行う。定員70名。希望者は事務局まで。

★ (4) 日医認定産業医指定研修会について

3単位 八王子市医師会 10月15日(金) PM 6：30 0426-42-0181

5単位 日本産業衛生学会 10月19日(火) AM 9：00 03-3496-0091

2単位 杉並区医師会 10月22日(金) PM 7：30 03-3392-4114

5単位 神田医師会 11月13日(土) PM 1：30 03-3291-0444

※他地区からの参加可。各自問合せのこと。

(5) 平成5年医療施設静態調査の実施について協力要請あり**★ (6) ロシヤ共和国におけるジフテリアの発生について**

上記により国内のジフテリアトキソイド成人用不足中につき入手困難の場合は、渋谷・国分寺医師会センターに在庫があり、供給可とのこと。

2. 協議事項**(1) 日医会員増強運動について**

1. 地区会員中、日医未加入者
2. 会員の子弟医師
3. 大学無給助手
4. ビル診未加入者
5. 公私立病院 等に加入を勧める。

3. その他

★ (1) 医療費の通知について

東京都年1回が年数回となる見込み。

(II) 全国労働衛生週間説明会報告

(伊藤理事)

9月10日、青梅商工会議所にて、福生・河内会員のメンタルヘルスについての講演を行った。

(III) 各部報告

(各部長)

(学術部) 9月17日、出席76名で、在宅ケアの考え方についての講演会は盛会に終った。

(IV) 各地区会よりの報告

(各地区理事)

(福生) 9月13日連絡会。9月25日の臨時総会開催の経過報告。

(秋川) 地区会。 " "

今後の産排処理につき検討。

(羽村) 9月14日幹事会。 " "

(瑞穂) 9月20日地区会。 " "

(五日市) 9月19日地区会。 " "

【2】 報告承認事項

(I) 入会会員について

— 承認 — (真鍋理事)

(II) 五日市「保健所運営協議会」委員推薦について

(")

進藤 淳（再任）、伊藤敬一（新任）両会員を推薦する。

(III) 東京都医師国民健康保険組合「協力員」推薦について

(")

米山秀雄、堤 次雄 両会員を推薦する。

【3】 協議事項

(I) 平成5年度第2回臨時総会全般について

(真鍋理事)

(II) その他

(1) 古屋事務長の本年9月30日付、定年退職後の処遇について。

後任者の定まるまで、1年を限度に嘱託とし、事務長職を引きつづき、お願いする。

会員通知

- 西多摩医師会創立80周年記念式典案内
- 学術講演会（9／17）
- 平成5年度第1回成人病検診従事者講習会（肺がん・乳がん）の実施について
- 東京都心身障害者医療助成費支払に係る一時支払不能等に関する処理について
- 「救急の日」における救急医療施設医師研修会への出席について
- 医療費通知実施について
- 中央ブロック産業医研修会のお知らせ
- 平成5年度医療施設静態調査及び患者調査の実施について
- 平成5年度における国家公務員等共済組合員証等の検認について
- ポスター（障、福、親医療証をお持ちの方へ）
- 会報
- 検査関係事項の照会依頼について
- 西多摩医師会第2回臨時総会開催案内
- 学術講演会（9／29）

医師会の動き

医療機関数	172	病院	28
		診療所	144
会員数	356	A会員	160
		B会員	196

会議

- 9月2日 在宅難病訪問診療
 4日 立川グランドホテル打合せ
 7日 臨時会報委員会
 8日 理事会
 16日 在宅難病訪問診療調整委員会
 // 稅務署との懇談会
 20日 会報委員会
 21日 理事会
 25日 第2回臨時総会

講演会・その他

- 9月8日 整備会
 16日 法律相談

17日 学術講演会
 講師：日本医科大学
 リハビリセンター
 教授 竹内孝仁先生
 演題：在宅ケアの一考え方について

28日 青梅医役員会
 29日 学術講演会
 講師：東京女子医科大学
 脳神経外科
 教授 高倉公明先生
 演題：脳疾患に対するガンマナイフ治療

役員出張

- 9月7日 都立青梅看護専門学校運営協議会
 10日 5年度全国労働衛生週間説明会
 14日 都医苦情処理委員会
 17日 都医会長会
 // 三多摩ブロック会長会
 24日 都医代議員会

地域医療部

伝染性紅斑、手足口病の取扱について

この度、日本小児科学会雑誌第97巻第8号において、日本小児感染症学会運営委員会の「伝染性紅斑」「手足口病」の登校（園）停止に関する見解が紹介され、この内容が8月27日付朝日新聞朝刊に掲載されました。

その内容は、伝染性紅斑は発しんが出ている時期には、ウイルスはすでに排泄されなくなっている。手足口病は症状がないときでもウイルスが排泄されていて感染防止は困難であり、いずれも登校（園）停止にする必要はない。というものでしたが、伝染性紅斑、手足口病は学校保健法施行規則第19条の学校において予防すべき伝染病の第3類に含まれ（他に結核、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、流行性嘔吐下痢症等があります。）出席停止期間の基準では第3類の伝染病にかかった者は治癒するまで、ただし、学校医、他の医師が適当と認める予防処置をしたとき又は病状により伝染のおそれがないと認めた

ときは、この限りでない。となっています。

新聞を見た父兄や学校関係者より、これらの伝染病に発病しても全く登校（園）を停止される必要がなくなったとの誤解が生じております。このため東京都医師会に、この対応についての見解を問合せましたところ、9月6日、次のように通知がありました。

1. 「伝染性紅斑」「手足口病」は学校保健法施行規則第19条による学校において予防すべき伝染病第3類のその他の伝染病の範疇であり、出席停止の基準は本会発行「学校医の手引き」のとおりである。
2. 学校保健法施行規則が改正されない限り、学校医は施行規則に則った対応をすべきであり、現時点では、学校医が適当と判断した場合に限り「伝染性紅斑」「手足口病」を出席停止の解除とすることができる。

(高水)

学術

在宅ケアにどうかかわるのか

— 学術講演会から —

片 平 潤 一

去る9月17日医師会主催の学術講演会が医師会館で開かれました。日本医大リハビリテーションセンターの竹内孝仁教授の「在宅ケアの考え方を巡って」の演題でしたが、普段の講演会からは想像もつかない多数が出席し、この問題に対する関心の高まりがうかがわれました。しかし、その殆どは保健婦さん、看護婦さん、技師さんなどで、医師の諸先生はわずかに10名ほどを数えるのみと、医師の間での関心の低さも同時に明らかになりました。竹内先生は在宅ケアの問題に積極的に、かつ実践的にかかわっていらっしゃるということ

で、内容は具体的で非常に説得力のあるものでした。医療の進歩による、病気をもったまたは病後の老齢人口の急速な増加と、社会でそれを抱え込むシステムが無いことにより、在宅の患者さん方を我々医師が診る（診ざるをえない）ことは今後絶対的に要求されることだと思います。そのイメージは「慢性の病気をもった患者さんが寝ている→往診して薬を出す→病気が進まなければよし」でしょう。そうではなく、在宅ケアというのは寝たきりにしない、痴呆にしないためにはどうするのかということであり、その後にターミナルケ

アがある、というのが竹内先生の講演の趣旨でした。講演はその前半部分についてでしたが、その概略を10点にしぶってお知らせ致します。

1. 現在の日本には老人医療、老人福祉など、老人何々とつく言葉で定まった考え方のあるものは一つもない。在宅の老人・患者のケアをどうしていくのかのシステムが無いので、訪問看護婦や保健婦は全く無益な努力をしている。今最も大事なことは、中心になって援助の仕組みを作る「キーパーソン」が必要だということであり、それは保健婦がならなければならない。
2. 在宅ケアを考える時、老人または患者本人についてだけではなく、その家族についても考える必要がある。現状は、手足を折り曲げたままで拘縮を起こしている患者があり、そのベッドのそばで家族が半日以上(50%以上の人々で)拘束されて大変なストレス状態にいる、というものである。
3. 老人、患者は何故寝たきりになるのか。「病気になったから」寝たきりになったのではない、病気になって、病院で治療して歩いて退院し、家で寝たきりになる。その原因の多くは、「外に出ない(出さない)」、「家でじっとして動かない」ためで、刺激がなく寝たきり、痴呆になるという道をたどる。
4. 閉じ籠って、人と交わらないでいることを解決しないことには、訪問看護もかえって逆効果である(その状態を固定化するだけ)。地域に、家から出られる施設をどれだけ作れるのかが大事である。
5. 廃用症候群というのがある。例えば寝たきりでいると、毎日筋肉の3%が失われる。骨は4日で拘縮を起こす。心肺機能は低下する。リハビリと称してベッドのそばに立たせるだけでは、関節の拘縮を防ぐのとバランス感覚を保つのに役立つのみで、廃用症候群をくいとめられない。「歩く」、「外に出る」が絶対に必要で、そのためには「座る」ことができなければならない(介助しても)。健康に危険があつて座ることができない人は入院が必要である。

6. 座れたら車椅子で外出することが目標となる。これは褥瘡を作らないためにも大事である。
7. 家族について考えるとき、そのニーズに着目する必要がある。その問題は家事、経済、家族関係、介護者など8つに分類できる。また極めて大事なことは多くの問題に孤独に対処することによるストレスを取り除いてあげること。
8. 褥瘡について。褥瘡を「治す」ことは殆どできていないだろう、「治っている」だけだろう。褥瘡が治るために第1に1日何時間座っていられるか、第2に良質の蛋白質などの良い食事、第3に良い家族関係である。単に医学的処置をしていても絶対に治らないのであり、これらに必要なサービスを提供することが必要。
9. 訪問看護、ヘルパーは「台所で食事を作ってあげる」のでは駄目で、外食、コインランドリーなど外的的なサービスを最大限に利用して、家族と患者に自由な時間を作つてあげる。
10. 外に出るのには通所施設などのデイサービスセンターを利用すること。これは患者と家族が自らを客観化するのにも役立つ。以上、かいつまんでご紹介しましたが、お気付きの通りこれは主に看護婦、保健婦、リハビリの技師の人達を対象にしていると思われますが、我々医師が人を見ないで病気だけを診がちなことを大変反省させられます。寝たきりを作らない、痴呆にさせないために医師はどれだけのことをできるのか。大きな介護システムの中で医師はどういう位置にあるのか。また不幸にして寝たきり、痴呆化してしまったら、医師はどういう働きができるのか。単に薬を出すだけでは済まされないことは明らかです。さらに、在宅患者への医療が「夜間に呼び出されるのはかなわん」に矮小化されてしませんか。

しかし、実は在宅患者になんらかの形でも関わっているのは少数の医師であつて、しかも減少しつつあります。面倒な、時間を潰される在宅医療はいやだという気持ちが広がっています。地域医療に貢献しますという開業

医の決まり文句は殆ど口先だけになってはいませんか。冒頭にも述べましたように、病気を持った高齢者が増えています。また「病院で死ぬということ」のように、人間らしく死にたいという当然の欲求は在宅ケアの増加にすぐ結び付きます。我々医師がこうした社会的な動きに目をつむって自らの欲求のみを追いかけいけば、人々の尊敬をかちとることができず、自らに誇りも持てないばかりか、社会的な非難を浴びてすべての面で転落していくでしょう。

医師会でもこうした動きに対応して委員会を作り様々な働き掛けをしています。しかし、正直なところ会員にはその姿や行き先が殆ど

見えないように思います。自分の患者さんが家庭でどのように生活しているのか、なにが必要とされどうしているのか、などさっぱりわかっていないません。それは我々一人一人の努力不足もあるでしょうが、医師会としての会員諸氏への情報の伝達や啓発の不足も影響してはいないでしょうか。さらに全体的な在宅介護システム作りへの医師会の関わりはどうなっているのでしょうか。

80周年を迎えて、今後の医師会（というよりは開業医の未来といったほうが実際的でしょう）を考えいくうえでこの問題は大変重要であり、その意味で今回の講演は我々に多くのヒントを与えてくれたと思います。

文芸隨筆その他諸事百般

雑 記

医 師 会 名 簿

山 田 正 哉

現在我が西多摩医師会名簿は何処に出しても何等遜色のない立派な物である。西多摩医師会には悲しいかな創立当時の医師会員名簿が、殆んど現在保管されていない。私の手元にも無く、西多摩医師会創立当時の会則はあっても名簿は無く大正13年12月現在の縦18cm、横9cmの手帳式会員名簿があって、会員38名が記載されている。（会報第229号参照）

医師会に現在保存されているものとしては、昭和13年10月現在の医師会員名簿が、略同型の大きさで会員38名を記載している。（会報第230号参照）のが一番古い筈である。

その後は戦争等の関係から名簿が発行されなかったのか、或は発行されても保存してなかったのか、はたまた昭和26年の三枝医院の火災で消失してしまったのか詳らかで無いが、医師会にも保存がなく、私の処も再三の建築で廃棄されてしまったのか見当らない。

戦後は物資不足等もあって名簿の発行が無かったのか医師会等に保存されてる名簿は、戦後数十年を経過して作られた貧弱な名簿が

残っている。ガリ版刷りの薄い物で名簿とは名ばかりの物であった。高水会長の時総務担当の私としては、他医師会の名簿を見ると立派で戦後30年も過ぎると、我が西多摩医師会員名簿は、恥ずかしくて何処にも出せず何んとかして他医師会に負けぬ立派な名簿を発行し度いと、当時総務部長だった福島大寿先生と相談して努力したがなかなか思う様に事は運ばなかった。

現在の形式の名簿を作るには並々ならぬ苦労があり、企画して実行に移る迄には約2年近い月日が流れ去った。名簿の大きさ、内容の問題、定款を入れるのか入れないのか等問題が集積して、福島先生とアレヤコレヤと日夜相談しても暗中模索を続けるばかりであった。各地区医師会の名簿を見ると立派で、相当の経費をかけているので、一応立派な医師会名簿を見せて、昭和印刷から見積りを出して貰った。

然し当時の医師会予算は、現在に較べたら会員数も、会費も違い多額な費用を名簿製作

に使用することは到底不可能で、この捻出に頭を悩ませる結果となった。名簿の中に広告を掲載することで其の費用を捻出することを思い立ったが、はたして如何程の応募があるか、また広告掲載スペースとの金額を如何程にするのか検討を開始することにした。

そこで私の知ってる製薬会社関係の課長や薬品問屋を福島君と当って、名簿に広告掲載可能かどうかの問合せを実施した処賛同援助可能なることが判明した。広告範囲を何処でするのかに就いても検討した結果会報に広告を掲載してる処は勿論のこともう少し手を広げることとした。

名簿の内容をどうするかで福島君と何度も案を検討した結果、今迄当医師会員名簿を見ると、勤務医の先生方は勤務先のみ住所が掲載されていて住居先の無いのはどうしたら良いかでまた頭を悩ませた。自宅先を掲載した際先生方にご迷惑が掛からぬだろうか、自宅先が判明してる場合の医師会としてのメリットは有るのか無いのか、この問題に関して福島君と討論した結果、新しい名簿を作る以上は色々な問題が今後惹起しても、将来必ず記載して良かったと思う時が有るに違いないと決心して掲載することにし、責任は私が取ることで実施することにした。

また、会員の出身校を記載することにしてた処思わぬ方面から反対意見が出された。私は出身校の記載の是非に就いて、数ヶ所の医師会に問合せをしたが、記載を認めている医師会では各会員間の先輩、後輩が明確となりコミュニケーションが良くなつたと、また記載の無い処では自らお互いに学校の先輩、後輩が判明して左程価値あるもので無い様だと返事が來た。

出身校の記載なしで、会員の現住所、自宅住所の電話番号、学校、幼稚園、保育園医の有無、勤務医には勤務場所並に自宅住所夫々の電話番号の記入を依頼する調査票を配布した。

会員から送られて來た資料を医師会青木事務員外とで、個人開業、病院別、地区別、アイウエオ順に会員を別に抜き出す作業が非常にめんどうな事で半ヵ年近くもかかってしまった。その間に各製薬会社、薬問屋、検査施設、

銀行、デパート等に広告掲載の依頼と広告料の案内を発送した。

全ての資料が整い編集方法を考えて、昭和印刷に印刷を発注し、ゲラ刷を訂正して本格的な印刷が開始されて、新しい医師会員名簿が確か昭和50年の秋に出来上って来て、ホットしたことを覚えている。名簿製作費用は募集した広告掲載料で出来上り、当時の金額で20万円近かった様に覚えている。医師会から一銭足りとも援助を受けずに、何処に出しても恥ずかしくない立派な医師会員名簿が出来た時は、福島先生を初めとして事務の人達と嬉れし涙に噎び泣いた。

この時の名簿が基本となって、現在医師会から名簿が発行されるようになり、今の人達はこの苦労は殆んどご存知ない筈である。

私も立派な名簿を作つて少し鼻高々な気分になっていたが、最近医師会事務の青木君から戦争終決後の昭和28年度の医師会員名簿を見せられて驚いてしまった。

当時の医師会でも優秀な庶務担当の故坂本富雄先生が、既に私が企画した名簿とソックリ同じ形式で印刷はガリ版刷りであるが作られていた。

その名簿を見ると広告は広範囲から取られ、銀行関係では埼玉銀行（現あさひ銀行）、武陽信用金庫（現西武信用金庫）、青梅信用金庫から山之内製薬株式会社、薬問屋関係ではモリタ薬局（五日市町）、日本堂（現東京医薬品株式会社）、三浦商店（八王子市）、五王自動車、青梅交通株式会社、奥多摩振興株式会社、佐藤政光税理事務所（青梅市）、東京医師協同組合、西宮建設（青梅市）、清水建設工業所（青梅市）、鳩和建設工業株式会社（青梅市古里）、わさび加工の岩佐商店（青梅市日向和田）、日本ケミカルコンデンサー株式会社青梅工場、朝日生命立川支所、青梅出張所、片倉工業株式会社多摩製作所（福生市宇宙センター建設予定地）、天徳（青梅市）、三河屋（青梅市）、間坂屋紙店（青梅市）、杉山製陶株式会社（青梅市）、青梅看護婦・助産婦斡旋所、青梅薬業会、青梅三業組合、割烹深沢本店（福生市現マンションダイアパレスの所）の広告を取扱っている。

終戦後8年経過した時点で物資も豊富でない時代に、多くの広告を求めて会員名簿を作り、その内容も各地区青梅、氷川、福生、五日市地区毎に会員を区別して掲載し、各種指定医名簿即ち優生保護法指定医、労災保険指定医、結核予防法指定医は青梅保健所関係と五日市保健所関係とに区別して掲載し、身体障害者（福祉）指定医と事細やかに区別して掲載されてるご努力に対して、唯頭の下る思いが致すばかりである。

この名簿を企画なされた坂本富雄先生は、五日市町伊奈に眼科を開業なされ旧家であって、お父様も同好医会時代に医師会運営にご努力なされた方であった。私も先生を良くご

存知申し上げて居り、体格もご立派であられたがおみ足が少し不自由で、亡き父からは現在の医師会の有るのも先生のお力によるものだと常に聞かされていたが、この戦後間も無い物資に事欠く時期に作られた名簿を拝見して、物資も潤沢な然も印刷技術も向上した時代に、私と福島先生と共に作った現在の名簿の基本など、亡き坂本先生から見たら当先生が苦労なされたことと比較したら我々の苦労など物の数にも入らぬことと恥ずかしき思いに駆り立てられます。

先生の偉大な業績を拝見して、先生をお偲びすると共に先生の御靈に対して心からご冥福をお祈りして本稿の筆を置きます。

ボルドーに行く

堤 次 雄

昨年の秋、古い友人のY君と35年ぶりに会い、洋食屋で互いの無事を祝い乾杯した。

彼は、「お一、ボルドーだな、サンテミリオンのは旨いよ」と云った。

わたしの知っている彼は熱烈な焼酎党で、いつも皺のよったワイシャツを着た蛮からタイプの男だった。時に妙に派手なネクタイをするものだから、口の悪い仲間に、あれは、「汚れしゃれ」との酷いあだ名を献上されていた。だが、今の彼は違う。仕立のよいスーツに、調和のとれたネクタイを締めた老紳士に変っていた。

しかも、わたしが、耳にしたこともない、「ワインはサンテミリオン」とか云うのだから、びっくりするのである。

「人は常に進歩し、変るさ」と笑みを浮べて語り、ワインの該博な知識にも驚いたが、わたしには、彼が得意満面の勝者のように写った。わたしの若い頃は、ワインとは全く無縁であった。70年代になって、世の中は好況に転じ、「いざなぎ景気」と云われた。その頃から、わたしも、時にはステーキを食べ、ワインを飲む機会があった。だが、今でも、ワ

インについては、甘口、これは辛口、とわかる程度で素人である。産地によって、ブルゴーニュもの、ボルドーのシャトー何とか、などの呼び方をすると知ったのも、Y君に会ってからである。

妻に夏休みはどうするのか、と聞かれて、わたしは、「ボルドーに行こう」と行った。

わたしはY君に、「ボルドーで飲むワインは一味違う、旨さは格別だよ、ウフ、ウフ……」と、ただ自慢したかったのである。

さらに旅行書に、「ボルドーのワイン産地には健康的な美人が多い」とあったし、スペイン在の作家、堀田善衛氏は時どき、ボルドーまで食事に出かけた。と新聞か雑誌に書いていた。これはボルドーの料理が旨いということである。ワインが旨く、料理がよくて、美女多し、と、きちゃあ、わたしは行かぬわけには参らん。知って行かずば、男が廢たる。

妻はボルドーより、ロワールの城巡りで歩く方が健康的でよい。と主張した。

「あなたは若い頃、よく飲んでたから、この人はきっと早く呆けると、不安だった」とか、「この旅行を機会にワイン依存症になっ

たら心配」とかブツブツ云って牽制してきた。

「何と云おうが、オレは絶対ボルドーだ」と押し切った。

トシをとると変なことで発奮したり、絶望したりする人もおられるそうだが、わたしもこの頃、へ理屈こいで段々と頑固チヂイになっていくのが、わかるのである。

パリからボルドーへは飛行機で1時間である。黄色く濁った水を湛えて、ゆったりと流れるガロンヌ川は、ボルドーの街を貫き大西洋に注いでいる。ボルドーは古くから、川を利しての貿易とワインで栄えた。

この地方はフランス第一のワイン産地である。街は18世紀頃の少し煤けた建物が多く、パリのオペラ座のモデルとされる大劇場もあって、どっしりと落ちついた雰囲気をもっている。妻は、「美少女がそのまま、年老いたって感じ」と云ったが、この表現は当っていると思った。予約したホテルは郊外の丘の上にあって、部屋数は10室と小さいが、シェフがオーナーだけに、レストランの料理はいい。ワインを飲みながら街の美しい夜景を眺めてのディナーは、客に満足感を与えてくれる。

シャトー（葡萄畠を有する醸造所）巡りのタクシーの運転手は、自分はドイツ人だ。と自己紹介した。奥さんは土地の人とのことだった。

彼は両方の小指を擧ませて、「ドイツと日本は友達」と、云った。街を出て約一時間で目当の、サンテミリオンに着いた。

村の中心に石造りの古い教会があつて、周囲に石造りの住居が肩寄せ合つて、集落を作っている。村の中のすりへって、凹んだ石畳の狭い道を歩くと、その古さは、わたしを中世に迷いこんだ気分にさせた。村の小さな食堂で、ハムステーキを肴にワインを飲んだ。

勿論、ワインはサンテミリオンである。

うまいっ。ここまで来たのだ。意地でも、うまいっ。と云おう。目的を達成した喜びが、じんわりと湧いてきた。

日本の造り酒屋の構えも立派だが、シャトーも広大な葡萄畠の中に立派な庭園を持ち、石造りの建築物は貫禄充分であった。

近代的設備で化学工場のようなシャトーもあるが、多くは昔ながらの手法でやっているようだ。葡萄畠は見渡す限り、地平の彼方ま

で続き、所どころに森や、小集落がある。

葡萄の木は低木で手入れのよさに感心する。

わたしは少し疲れ、シャトーのベンチに腰をおろした。後れて妻と運転手が来た。「彼が、ムッシューはお疲れですか、と云ってますよ」と妻の声に、わたしは立ち上った。彼に、「わたしは軽い脳血管障害と痔が悪いだけで、ほかは健康である。疲れちゃあおらん」と医学用語を並べたてて云ったが、彼に通じるわけがない。彼はニヤニヤしながら、指で、小さい。の仕草をして「すこしどいチエ」と云ってくれたが、日本語はドイツ語と似たような言葉があるなー。とても思つただろうか。

シャトー見学の受け付けの女性は、やはり美人揃いであった。最後に行ったシャトーは観光客が多く、三人の女性が応対していた。

その中の一番若い女性は品のよい顔立ちで、笑顔が魅力的だった。妻に、「オイ、見ろよ。あのお嬢さんは美人だなあ」と思わず大きな声がでた。「まあね。あの人、マドモアゼルじゃなくてマダムよ」と、まことに素気ない返事。老夫と老妻ともなると、若い女性に対する審美眼は違つてくるものだろうか。

『あなたの女性を見る目付きが変なのよ』と勘織つてのことであるのか。ならばだ。素直じゃないよ。

レストランでは、わたし達はいつも別々の料理をとり、お互いに少しづつ交換して味をみることにしている。ソムリエが、わたし達の食事の仕方を覚えていて、次の日には、ボイに大きな取り皿を持ってこさせた。

赤ら顔で早口、田舎のオデさん的な風貌で、中々気がきく。わたし達とは、何となく気が合つた。最後の日のディナーは、オリーブオイルを使ったマグロの料理で、中々の美味であった。

ソムリエが、「ムッシュー、今晚もまた、サンテミリオンですか」と聞いた。

わたしは、「うん。勿論だよ」と頷いた。

「Y君、ボルドーで飲むサンテミリオンは、一味違う。格別だ。我が心は歓喜に満つ、だよ」。オレは、これを云いたかったのだ。

オレは、勝ったぞー。

わたしの脳血管性のデメンツは、かなり進んでいるようである。

新人紹介

星野 誠 会員

星野小児科内科クリニック(秋川市)

昭和56年東京医科大学卒業。その後、同大学小児科学教室に入局し、平成4年の春までお世話になりましたが、東京医科大学を同年3月に退職、その後約1年半の間東京都同胞援護会昭島病院にて小児科を担当する傍ら内科学を少し学ばせて頂き、此度秋川市にて小児科内科クリニックを開設させていただく事となりました。(医院開設後の現在も、昭島病院の御厚意にて、水曜日に小児科を担当させていただいております。) 今後は、地域医療の一助となるよう努力精進する所存でございます。何事に於てもまだ未熟であり、これからも諸先輩方のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

現在時間があれば、旅行、ドライブをし、夏は水泳、冬はスキー、他にたまのゴルフを楽しんでおります。我が家は家族構成は、妻・幸子、長女・政美(小学2年)、次女・絵美(2才)です。なお、父は、現在福生にて小医院を営んでおります。



お知らせ

11月(10月診療分)の
保険請求書類提出日
11月8日(月)
——正午迄です。——

法律相談

西多摩医師会顧問弁護士 鈴木禎八先生による法律相談を
毎月第2水曜日午後2時より実施しておりますのでお気軽に
ご相談下さい。

- ◎ 相談日 10月は13日(水)
11月は10日(水)の予定です。
- ◎ 場 所 西多摩医師会館和室
- ◎ 内 容 医療、土地、金銭貸借、親族、相続問題等民事、
刑事に関するどのようなものでも結構です。
- ◎ 相談料 無 料(但し相談を超える場合は別途)
- ◎ 申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
(注)先生の都合で相談日を変更することもあります。

表紙のことば

『薬やさんの看板』

五日市駅から右。橋をわたって、一寸した坂を登ると、右手にこの看板の掛かって居る薬局がある。

社長の井上さんに伺ったら、明治初年、この店を開業した時に掲げた看板と言う。発汗解熱、「實功丸」とあるから、感冒薬であろう。

この看板は全国に配られたが、今、幾つ残って居るか分らぬ由。しかし、「實功丸」の発売元は今でも上野の池の端に在ると言う。

私は50年前にこの看板を見た。店と看板が調和して居り、美しさと共に、年月の重さ、歴史の深みを見せていた。五日市の街は、随分変わった。しかし、まだこのように美しく調和したものが沢山残って居るように思われる。

安富一夫

あとがき

80周年記念式典が目前にせまり、実行委員や事務局の皆さんもご多忙のことと思います。我が編集委員会も全員が80周年誌担当の実行委員を兼ね、記念誌発行の準備作業中です。会員の皆さんのおき記念となり、これから的新入会員にも西多摩医師会の歩みを理解していただけるような記念誌が出来ればと思います。

ご協力頂いた顔写真付き自己紹介名簿をはじめ原稿も順調に集まっていますが、まだ医師会活動に関する「思い出の写真」が不足しています。10月末までにお寄せ頂ければ掲載可能です。是非アルバムを紐解かれ編集委員か事務局までお預け下さい。よろしくお願ひします。

玉木一弘

□□□ 原稿募集 □□□

表紙の絵画・写真、御意見、文芸、
随筆、諸事百般…………投稿自由

毎月15日〆切

事務局又は広報委員まで



社団法人 西多摩医師会

平成5年10月1日発行

会長 松原貞一 〒198 東京都青梅市西分3-103 TEL 0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会 明田川修生

天野了一 石井好明 片平潤一 小机敏昭 辻田茂夫

瀬戸岡俊一郎 高水松夫 玉木一弘 山川淳二

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428(22)3047・FAX 0428(22)9993

健康の輝きをひろげる。



株式会社**ビー・エム・エル**

本社・〒166 東京都杉並区島内寺南1-34-5 TEL.03-3316-0111(代)

総合研究所・〒350 埼玉県川越市中361-1 TEL.0492-32-0111(代)

R
RETAIL BANK
あさひ銀行

あなた
の街の
あさひ
です。

あさひ銀行

東青梅支店	TEL.0428-22-2121(代)	〒198 青梅市東青梅2-17-4
奥多摩特別出張所	TEL.0428-83-2515(代)	〒198-02西多摩郡奥多摩町水川1421
青梅支店	TEL.0428-22-1101(代)	〒198 青梅市青梅295
河辺支店	TEL.0428-24-2401(代)	〒198 青梅市河辺町10-2-9
福生支店	TEL.0425-51-1021(代)	〒197 福生市福生1048
村山支店	TEL.0425-61-1211(代)	〒208 武藏村山市中藤4234
秋川支店	TEL.0425-58-2611(代)	〒197 秋川市下代継111-5
羽村支店	TEL.0425-79-0881(代)	〒205 羽村市五ノ神4-13-10
五日市支店	TEL.0425-96-1311(代)	〒190-01西多摩郡五日市町五日市840-1

品質管理と安定供給をモットーに
今日も歩むグリーンネットワーク

医薬品総合商社

 東京医薬品株式会社

多摩支店

〒190 東京都立川市富士見町4丁目2番1号

TEL. 0425(28)0703(代表)

〈営業所〉

小金井第一営業所 〒184 東京都小金井市本町6丁目9番36号 TEL. 0423(84)5181(代表)

小金井第二営業所 〒184 東京都小金井市本町6丁目9番36号 TEL. 0423(84)5191(代表)

立川営業所 〒190 東京都立川市富士見町4丁目2番1号 TEL. 0425(24)3361(代表)

八王子営業所 〒192 東京都八王子市大和田町1丁目8番24号 TEL. 0426(46)7475(代表)

多摩営業所 〒206 東京都多摩市南野3丁目4番17号 TEL. 0423(71)2671(代表)

小平営業所 〒187 東京都小平市小川東町4丁目6番6号 TEL. 0423(43)5211(代表)

羽村営業所 〒205 東京都羽村市神明台3丁目32番2号 TEL. 0425(55)7501(代表)

優れたノウハウで西多摩医師会会員の
ニーズにお応えいたします。

経理事務に関することなら何でもお気軽にご相談下さい。

- 一人医師医療法人の設立・先生方の関連事業の会社設立
- 新規開業時の銀行提出資料の作成
- 毎月の記帳・給与計算・決算業務の代行・指導

(この業務はNHK教育テレビで紹介された21世紀の経理システム
「キヤツシユ・レーダー」で行います。)

- 賃貸・譲渡や経営再建に関する相談
- 利益計画の作成、事業承継や財産管理等の資産保全に関する相談

なお、税務相談、申告書の作成等の税務については、日経メディカル「メディクイズ」
を連載執筆中の「小山公認会計士事務所」がサポートいたします。

有限会社 経理処理サービス

本社 東京都田無市本町5-11-14

TEL. 0424(64)8390

FAX. 0424(64)2218

自然のめぐみを最先端の技術で活かす——ツムラ漢方製剤エキス顆粒(医療用)128品目+3品目



ツムラは、ツムラ漢方製剤エキス顆粒
(医療用)128品目+3品目により、
高齢化社会の深まりつつある現実の
治療に貢献しつつ、
漢方製剤の科学的な実証を通じて、
21世紀に至る長寿社会の治療手段と
しての役割をはたしていきたいと
願っております。



最新のテクノロジーが計測します
そして、人の眼と心が記録します



臨床検査のパイオニア

保健科学研究所

本 社 〒240 横浜市保土ヶ谷区神戸町106 TEL/045-333-1661(大代表)

仙 台 支 社 〒983 仙台市宮城野区扇町1-3-5 TEL/022-236-9345(大代表)